

研究・調査報告書

報告書番号	担当
2 2	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
The metabolic syndrome and associated lifestyle factors among South Korean adults. 韓国の成人におけるメタボリック症候群とそれに関連する生活習慣	
執筆者	
Park HS, Oh SW, Cho SI, Choi WH, Kim YS.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Int J Epidemiol. 2004 Apr;33(2):328-36.	
キーワード	
メタボリック症候群、危険因子、BMI、喫煙、生活習慣	
要 旨	
<p>背景：</p> <p>メタボリック症候群の管理の重要性は、心血管疾患予防の観点から重視されてきた。韓国は肥満の有病率は低いが、メタボリック症候群の有病率とそれに関連する危険因子についての十分な情報は示されていない。</p> <p>方法：</p> <p>1998年の韓国の国民健康栄養調査の20-79歳の受検者のデータが用いられた。国民健康栄養調査は、国民を代表する施設入所していない地域住民を対象とした横断研究である。メタボリック症候群は第3次コレステロール教育計画(NCEP, ATP-III)の基準により診断し、それに関連する生活習慣要因が検討された。</p> <p>結果：</p> <p>韓国成人における年齢を補正したメタボリック症候群の有病率は男性で14.2%、女性で17.7%であった。一方、年齢を補正した肥満の有病率は男性1.7%、女性3.0%であった。年齢、不就業、肥満、喫煙は、性別に関係なくメタボリック症候群関連要因であることが示された。男性での中程度の運動(週2-3回)と、女性での少量飲酒(15g未満/日)はメタボリック症候群の相対危険度を減じていた。</p> <p>結論：</p> <p>肥満の有病率が低いにもかかわらず、メタボリック症候群は15%以上の韓国成人に認められた。BMI高値と喫煙はメタボリック症候群の独立した改善可能な要因であることが示された。したがって、体重管理と禁煙がメタボリック症候群を減少させうると考えられた。</p>	